景観照明の心理効果に関する一考察

○坂輪 桂 櫻井 美奈 福田 忠彦（慶應義塾大学）

An experimental consideration on the psychological effects produced by landscape lighting

Katsura Sakawa, Mina Sakurai, Tadahiko Fukuda(Keio University)

はじめに

近年、照明には、照度の不足を補う本来の目的に加えて、薄暮から夜間にかけてライトアップと昼間の自然光により景観とは異なる景観を醸し出す手段としての役割が加わった。そこで、本研究では、日中の景観とライトアップでの景観が人間に与える心理効果を分析するとともに、眼球運動を計測することにより結果の裏づけを試みた。

方法

SFC キャンパス内の景観照明、歴史的建築物などを対象とし、現場で SD 法による心理効果の評価実験を行った。なお、一部の評価については実験景観対象をスライドにして日中及び夜間ライトアップ時の評価を

行った。アンケートでは、本研究で使用するに適していると考えられる形容詞 30 対を用い、7 段階評価を行った。

結果

SFC キャンパス内での実験の結果、日中と夜間では、主要因子に明確な違いがあることが把握された。また、典型的な景観照明の例として取り上げた歴史的建築物に対する実験においても、日中と夜間のライトアップ時では、主要因子に明らかな差を認めた。

これらの視対象実験対象をスライドで提示し、評価時の観察者の視線の動きをアイカメラで計測したところ、注視点、視線の軌跡に明らかな差が生じた。

トイレ照明の人間工学的検討

宮本雅子（滋賀県立大学）

Ergonomic Investigation on the Lighting for Bath Room

Masako Miyamoto(The Univ. of Shiga Pref.)

1. はじめに

高齢者のための照明に関しては、主に明るさについての研究がなされているが、ランプの交換・清掃など照明の維持管理面が問題になるケースも見られる。特に、トイレは排泄行為がなされる場であり機能性が重視されるが、近年インテリアを楽しむ空間となってきたことから、トイレ内の雰囲気、明るさ、照明の維持・管理のしやすさをブラケット照明を使用した、実験により検討することにした。今回は、大学生を対照とした実験とし、最終的には高齢者を対象とし検討していく予定である。

2. 研究の方法

実物大（約 2m²）のトイレ模型を使用し、ブラケット照明、天井照明、トイレ設備（暖房・洗浄便座）を

セットする。実験条件は、ブラケット照明設置の高さ 4 段階、水平位置 2 種類、器具の形状 3 種類で、その組み合わせ $4 \times 3 \times 2 = 24$ 対象に天井照明の場合の 1 対象を加えた 25 対象とした。また、各対象について、室内の輝度を測定した。

まず、被験者（30 名）の人体寸法を 7 式人体計測器で測定する。室内の評価は SD 法を使用し、室のイメージ・明るさ感・まぶしさ感・ランプの交換のしやすさなどそれぞれについて評価させた。それらのデータを基に、人体寸法・器具の位置関係とランプの取り替え易さ、器具の位置関係・形状とまぶしさ感および明るさ感との関わり、それぞれの実験条件・輝度測定値と室の雰囲気との関わりについて分析を行う。それらの結果をまとめポスターにし、発表する。